

皆さん、こんにちは。

新年度が始まってから1ヶ月が経ちました。ようやく生活のリズムができてきた反面、慣れない環境で、気持ちが落ち着かなかつたり、体調をくずす子どもたちもいるようです。

そんな時には、ゆったりと咲く花や鳥のさえずり、風の匂い、雲の形、月の満ち欠けなど、自然の中に季節の移ろいを感じてみましょう。肩の力が、スッとぬけると思いますよ。



## 1 コミュニケーションできていますか？

まず、日頃の自分を思い出して、チェックしてみましょう。

- あなたは、「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」「ごめんね」と、自分から言いますか？
- あなたは、名前を呼ばれたら返事をしますか？
- あなたは、子どもの話を最後まで聞いていますか？

普段の生活の中で、あいさつ、返事、話を聞くことは、人と関わる上でとても大切なことです。もちろん、子どもには学校やクラブ、近所の友だちと仲良く過ごしてほしいですよ。そう願うならば、まずは親が手本を示しましょう。



特に、「話を聞くこと」は気を付けたいところです。

子どもの言おうとしていることを先取りせず、最後まで話を聞いてあげましょう。

しっかり話を聞いてあげると、しっかり話を聞ける子どもに育ちます。



また、話しかけるときは、「名前を呼んでから」話し始めてみましょう。

名前を呼ぶということは、相手を認めているということにつながり、話を聞くことに意識を向けることができます。

食事しながらだけでなく、お風呂の中だったり、散歩中だったり、寝る前だったり、リラックスできる時に会話する時間をつくれると良いですね。

親が聞き上手になると、子どもにとって安心感や信頼感が育っていきますよ。



## 2 子どもに「読み聞かせ」をしてあげて！

子どもは、物語の主人公に自己同一化できる能力を持っています。物語の中で、ほうきに乗って自由に空を飛んだり、話すライオンと旅に出たりします。そして時には、友だちから仲間はずれにされたり、親が死んだりする悲しみにも出会います。

だからこそ、子ども（10歳くらいまで）の読書には、付添人が必要なのです。親が読んでくれると、安心して本の中に入り込み、その世界を体験することができるのです。

難しく考えることはありません。短いお話から始めてみましょう。



## 3 個性って何？

個性とは、雪の結晶のようなものです。それぞれの形があり、異なる美しさがあります。しかし、どの結晶にも、同じ六角形のベースがあります。私たちが、集団生活でみんなが守らなければならないルールや約束といった部分です。このベースがしっかりしていないと、きれいな結晶にはなりません。子どもの勝手な言動を「個性」として放任するのではなく、「悪いことは悪い」、「ダメなことはダメ」と親が教えることが必要です。そうすることによって、子どもたちが、「自分らしい、人とは違うすてきなところ」を輝かせることができます。

～ あとがき ～

子どもたちが大好きなロールプレイングゲームの王道と言えば、勇者が仲間と旅をして、最後は悪いボスを倒すというものです。しかし、我が子が小学生の頃に夢中になってやっていた「MOTHER2」は、普通の男の子が主人公なのです。武器も剣でもやりでもなく、野球のバット。「バット？じゃあ、レベルが上がると、鉄のバットくらいになるのかな」と思えば、“いいバット”だとか“さいこうのバット”に。敵と戦っても“倒した”ではなく“おとなしくなった”になるんです。最強武器や防具に身を固め、モンスターをガンガン倒していくことがゲームの醍醐味と考えていた私には、衝撃的でした。その上、主人公の男の子は、旅の途中でホームシックになり、何もやる気が起きないという状態になります。聞いたことありますか？！世界を救う勇者が“ホームシック”って。ビックリです。その解決方法はというと、



「家に帰って、家族の作る料理を食べ、自分のベッドで寝る」こと。制作者の糸井重里氏は言っていました。「帰る家があるから、冒険に出ることができるのだ」と。まさに、家庭教育につながるのではないかと感じました。子どもたちが外へ出て、いろいろなことにチャレンジできるのも、温かい家庭があるからこそです。さあ、家庭を子どもたちの心のよりどころに！！

★ 今月のオススメ絵本は「めっきらもつきら どおん どん」です。